

ハザード評価実践論 (WT114)

- 相模ソリューション取締役
- 元三菱化学安全性研究所
- 取締役
- 加藤正信
- プレゼンテーションの目的

講師略歴

- 元三菱化学安全化学研究所鹿島研究所長
- 元OECDガイドライン策定委員会の専門家委員として参画
- 現コンサルタント会社を設立、具体的な施策に助言

化学としての実学 における評価とGHS分類 副題 物質の意点と課題 留ける課題

■ トピックス

- 試験のガイドラインと解釈
- ヒトの健康に及ぼす影響
- 生態影響と残留毒性
- 試験結果からの影響の類推と限界
- 試験と規制
- 終論

トピック1 試験のガイドラインと解釈

- ◆ 試験法のガイドラインとはどんなものか、これから逸脱した資料はどう扱うべきか。試験でどこまで分かるのか。OECD のガイドラインの策定で常に意識されたのはinferenceという言葉であった。

トピック2 ヒトの健康に及ぼす影響

- 急性毒性、刺激性試験
- 反復投与毒性
- 刺激性と感作性
- 発がん性と変異原性
- 生殖毒性
 - ◆ のガイドラインについて、試験に携わった経験を基に解説する。

トピック3 生態影響と残留性

- 魚毒性、ミジンコ毒性藻類への毒性
- 分解性、蓄積性、物理化学的性状
 - ◆ について、化審法創立の頃の原点に
返り解説する。

トピック4 試験結果からの類推と限界

- GHSの試験判定
 - ◆ よく出来た標準であるが、勝手な解釈が横行している。なぜ？
 - ◆ スクリーニングと確定研究
 - ★ スクリーニング試験だけで施策の基になるの？

トピック5 試験と規制

- 未知のリスク (unidentified risk)
 - ◆ 環境ホルモン？ 「危険でないとはいえない」は詭弁？
- 許容範囲と規制の限界
 - ◆ 建築現場での落下事故が絶えない
→ 2階建ては禁止??
- 天然品と人工化学品
- 完全主義の弊害 (product defense)
 - ◆ CMRというレッテル。

トピック6

終論

- 最終講義は危なさの言語表現について、聴講していただく方々とのディスカッションになろう。
 - ◆ 英語ではprobable, possible, potential, plausibleなどが曖昧さの程度を表す言語が、日本よりいささかは厳密に定義されている。GHSの日本が翻訳を例として提示し、